

環境活動報告

(2017年4月～2018年3月)

環境対策・取り組み

◆地球温暖化防止自主行動計画

- ①常に、前年度よりも温室効果ガス(CO₂)の総量削減を目指し、排出数値管理や運用取り組みを行います。
- ②パルシステムグループの一員として、温暖化防止自主行動計画(S-17)に参加し、グループ全体で目標達成に取り組みます。
*目標:2020年までに、2005年比で17%削減(26,948t-CO₂)
- ③地域性・独自性などの特色ある取り組みにより、地域・組合員またパルシステムグループ、社会全体での温暖化防止・環境取り組みの推進に貢献していきます。

パルシステム山梨では2009年8月に地球温暖化防止自主行動計画を策定し、二酸化炭素排出量の総量削減に向けた取り組みを進めてきました。2012年度中期削減目標年を終え、計画の検証を行い、2013年10月に対象・電気の換算係数を含めた見直しを行いました。また「山梨県地球温暖化対策条例施行規則」に基づく温室効果ガス排出抑制計画への参加(トライアル事業者として)も行っています。

2017年度の取り組み結果は以下のようになりました。

二酸化炭素排出量(電気・燃料・施設ガス)	513,770kg-CO ₂
自主取り組みによるCO ₂ 削減量	△181kg-CO ₂
合計	513,589kg-CO ₂

※電気のCO₂換算係数には、2016年度実排出係数(パルシステム電力0.182、東電0.486)を使用

2017年度の二酸化炭素排出量は前年比で約90.0%と減少しました。

要因はパルシステムグループの子会社「パルシステム電力」による、FIT電源(再生可能エネルギー)を中心とした電力使用です。CO₂換算係数が低いこの電力を、パルシステム山梨の3つの配送センターで年間通して使用したことで、昨年度よりも削減となっています。



【使用電力の変更を反映させた数値】

	2015年度	2016年度	2017年度	15-17比
電気使用量(kWh)	427,741	451,900	446,073	104.3%
CO ₂ 排出換算(kg-CO ₂)	213,871	148,298	88,865	41.6%
車輛施設含む総CO ₂ 排出	651,692	571,732	513,770	78.8%
	全て東京電力	3センター:期中パルシステム電力切替		

※実排出係数(電気事業者の調達した電源構成を反映した係数)を使用。2017年度は最新の2016年度値を暫定使用。

◆エコ通勤

化石燃料消費に大きく関わる自動車交通の抑制、地球温暖化防止への貢献、周辺地域の渋滞緩和、健康増進などを目的とし、自転車・徒歩通勤の奨励制度として2008年より開始しました。事業所から往復10km以内の職員・定時職員を中心に実践しています。

2017年度の結果

参加者	延べ4名
ガソリン削減量	78.0リットル
二酸化炭素削減量	181.0kg-CO ₂

※ガソリン1リットルの燃費を9kmとし、CO₂換算係数は2.322kg-CO₂(日本生協連合会自主行動計画ガソリン係数)を使用。

◆「やまなし森の紙」使用に伴う CO₂削減

地元山梨の県有林の有効活用と、県内林業・紙業への波及効果を期待し、2011年11月より、FSC 森林認証紙のコピー用紙「やまなし森の紙」を利用しています。やまなし森の紙推進協議会のご尽力により、同用紙には1箱あたり 1kg-CO₂の森林間伐等の森林経営により創出された排出削減・吸収量が付与されています

※使用量－排出削減量が確定次第、当生協の排出量計算に反映させていただきます。

◆2017年度 太陽光発電実績

おおむね前年並みの発電量でした。

	本部	甲府C	一宮C	西桂C	合計
公称最大出力 (kw)	3.19	10	3	52.3	68.49
発電量 (kWh)	2,600	15,273	4,666	58,089	80,628
売電量 (kWh)	172	—	—	45,787	45,959
CO ₂ 削減量 (kg-CO ₂)	1,180	2,780	849	2,239	7,048

※電気の CO₂ 換算係数には、事業所の使用電力を考慮し、本部:0.486、センター:0.182 を使用しました。

※CO₂削減量は自家消費分のみです。西桂 C の発電量は全量売電 42.3kW と、自家消費 10kW を加算した量です。

◆2017年度環境目標結果

項目	紙パック回収率	900mlびん回収率	コピーカウント(枚)
取り組み	通年	通年	通年
対象	センター	センター	本部
目標	72.8	80.1	369,052
実績	70.2	78.8	334,172
達成率	96.4%	98.4%	110.4%
達成状況	△	△	○

※達成状況（「△」は達成率 100%未満～90%以上、「×」は 90%未満）

パルシステムでは、多くの商品包材等の回収を行っており、適切なリユース・リサイクルルートに回すことで、環境負荷を低減した社会モデルを目指しています。2017年度も代表的な回収品目の「回収率」について通年で目標設定し、回収啓発に勤めましたが、目標に届きませんでした。管理部門等の多い本部事務所では印刷の見直しなどで紙の使用枚数削減に取り組み、集約印刷の徹底などで削減できました。

◆緑のカーテン

緑のカーテンは、つる性植物を育て、窓辺や壁面を覆うことにより、日差しを遮ったり、葉の気孔からの水分蒸散によって暑さを和らげてくれます。また室温の上昇も抑えることができます。

2017年度も、本部事務所と3つの配送センターで取り組みました。

◆環境社会検定試験（eco 検定）受験

幅広い環境の基本的知識を身につけるべく、環境社会検定試験（eco 検定）の受験・資格取得を推奨しています。2017年度新たに6名が取得し、現在43名の職員がエコ・ピープルとなっています（職員の68.3%）。

◆廃食油回収と菜の花プロジェクト

バイオディーゼル燃料事業は2013年3月末で終了しましたが、引き続き、組合員さんからの廃食油回収（県内 NP0 法人に提供）を行っています。また市民団体との活動として「バイオネットやまなし」による、田富みかさ幼稚園園児との菜の花の種の収穫（6月）や市町村・団体と連携した「廃食油回収キャラバン（7月）」への参加を通し、資源再利用への取り組みを広めました。

※2017年度組合員さんからの廃食油回収量：2,520 リットル

エネルギー政策推進に関する取り組み

パルシステムグループでは東日本大震災に伴い発生した、東京電力福島第一原子力発電所の事故を受け、2012年1月「パルシステムのエネルギー政策」を定め、グループ全体で取り組みを進めています。

- ・「減らす」節電と省エネ、効率化と最適化によってエネルギー消費をいっそう減らします。
 - ・「止める」速やかに脱原発を実現します。
 - ・「切り替える」原発への依存に替えて、再生可能エネルギーを急速に普及させます。
- パルシステムは「協同の力」で生活者がエネルギーを選択できる社会を実現します。

◆「うちエコ診断」

環境省が実施する「家庭エコ診断制度」に基づき、専用のソフトを使い、実施機関（パルシステム連合会）の診断士が省エネ・省CO₂対策をご提案するものです。昨年度の商品展示会で、イベント会場での即日診断を行いました（9件）。

◆オープンカレッジ「日本と再生」上映

3月に、映画「被ばく牛と生きる」の上映会を開催し、160名の方に来場いただきました。2011年の東電福島第一原発事故の影響で、被ばくしてしまった飼育牛と、その殺処分通達に抗い・苦闘する畜産農家を5年をかけ、丹念に追いつけた、命の尊厳を問う渾身のドキュメンタリーです。原発事故の影響、命の尊厳について、深く胸に刻み、考える機会となりました。



「被ばく牛と生きる」チラシ

◆意見書の提出

1月、政府に対しエネルギー基本計画の見直しに向けて、「パブリックコメントだけではない、国民が積極的に論議に参加できる仕組みづくり」「原子力発電に依存しない、そして再生可能エネルギーを中心としたより野心的なエネルギーミックスの構築」を要望する意見書を提出しました。

◆「パルシステムでんき」契約拡大中！

パルシステムグループの子会社による「パルシステムでんき」の契約受付は、2016年11月より、山梨でも始まりました。2017年度末で377件の契約数となりました（グループ全体では、7,195件）

*再エネ電源の視察

「パルシステムでんき」の特徴は業界でもトップクラスとなる再生可能エネルギーの比率の高さです。それも単に再生可能エネルギーであれば良いという事ではなく、発電産地とのつながりを重視しています。

6月には電力事業を進めるパルシステムグループ全体の職員で「までっこチキン」でおなじみの岩手・鶏糞バイオマス電源産地を訪問・交流、11月には理事・職員で山形の木質バイオマス発電産地と、小水力発電さんを訪問・交流してきました。さらに10月にはでんき契約組合員を含め、千葉での太陽光電源産地（ソーラーシェアリング：畑作の上で太陽光発電）を訪問・交流してきました。

まだ、取り組みは始まったばかりですが、再生可能エネルギーを作る人・使う人を繋ぎながら、より広めていきたいと思えます。



山形の木質バイオマス



千葉のソーラーシェアリング

その他の組合員活動、パルシステムグループと連携した活動

◆田んぼの生き物観察～五町田エコロじい田んぼ塾

10家族が参加し、年間を通じてお米作りを体験しました。年間の田んぼ作業の合間に、田んぼの生き物観察等を行い、親子で生態系やその恵みについて理解を深めています。

◆課題推進チーム：私にもできる CO₂削減の取り組み

2017年度は、より身近にCO₂削減につながる取り組みを検討すべく、理事・職員・組合員で課題推進チームを組んで活動しました。楽しんで気軽に取り組める事例をチラシ『エコまめくらし案』として作成・配布し、2月にはそれを元にした実践イベントを開催しました。

◆エコドライブ運動

1998年より、環境にやさしい運転を心がける運動に取り組んでいます。積み下ろしや駐停車時のエンジンオフ、キーチェーンの徹底、アイドリングストップに加え、「ふんわり発進」「早めのブレーキ」など、燃費に加え安全運転にもつながる運動として取り組んでいます。



「エコまめくらし案」チラシ（表）

◆出前講座

パルシステム山梨では、「自然派！おそうじ」「手漉きハガキ」など環境関連の出前講座を行っています。2017年度は37回の開催となりました。

また、講師役となる「環境パイザー」について、新規養成とブラッシュアップを進めています。

◆リユース・リサイクル／でんきの取り組み浸透

リユース・リサイクル／パルシステムでんきの取り組みを役職員・組合員さんにわかりやすく伝えるためグループでDVDを作成しました。どちらも山梨の組合員さんにご協力いただきました。リサイクルでは、紙パック回収～オリジナルブランドのトイレットペーパーの過程を中心に上げ、市民から始まった回収運動（大月発祥）の歴史も踏まえ、組合員さんの生活に根付いた運動としてわかりやすく表現されています。



「リサイクル」DVD撮影より

諸団体と連携した取り組み

◆山梨県生協連…構成団体として活動しました。

◆環境パートナーシップやまなし

「エコライフお絵かき・川柳コンテスト2017」に、パルシステム山梨も賞を設け、表彰式に参加しました。

◆エコライフ県民運動へ参加

山梨県が進めるエコライフ県民運動の主旨に賛同し、各センターを「リユースびん」、フェアトレードショップばるはぴを「リユースびん」「マイバック」の推進店として登録しています。

◆やまなしエコネットワーク

引き続き事務局を担い、環境市民オンブズマン活動・環境セミナーなどの取り組みに協力しました。

◆第19回ライトダウンやまなし2017

2017年11月に実施された「ライトダウンやまなし」に、引き続き実行委員会へ参加し、消灯呼びかけやイベントの実施に協力しました。

◆広がれ！小瀬エコスタジアムプロジェクト

実行委員会へ参加し、甲府市小瀬のスタジアムを“環境山梨”のシンボルに、と活動しています。環境クイズを中心にエコブースの運営協力、スタジアムでのゴミ計量等を実施しました。

◆各種会議・イベントへの参加

甲府市温暖化対策地域協議会、中央市温暖化対策地域協議会、都留市温暖化対策地域協議会、やまなし木質バイオマス協議会等に参加しています。また甲府市環境リサイクルフェア、県民の日記念行事など環境イベントにも積極的に参加しました。

パルシステム山梨の環境方針

パルシステム山梨は、地球温暖化防止対策や資源循環型の取り組み、再生可能エネルギーの普及を通して、持続可能な社会づくりの構築をめざします。

組合員への配送やサービスなどの事業活動や地域・社会への貢献活動を通して、環境負荷の低減をはかります。

地域の人々と環境にやさしい街づくりをすすめるとともに、「環境のパルシステム山梨」として地域から信頼される生協をめざします。

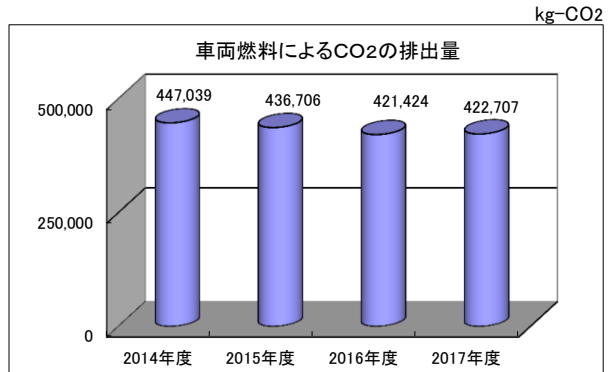
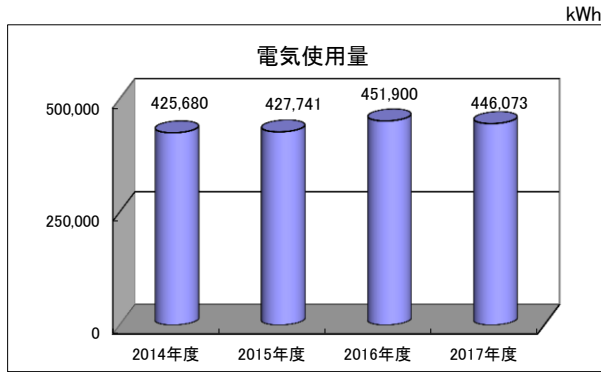
1. 地球温暖化防止・環境対策について、役職員の主体的な行動で、前年度よりのCO₂排出総量削減に向けて取り組みます。
2. 「パルシステムでんき」の普及を中心に、パルシステムグループとしてのエネルギー政策を推進します。
3. 実際の業務と連動した、環境取り組み目標を設定し、日常業務での環境推進をはかります。
4. 効果的な環境マネジメントシステムの運用に向け、見直しを行い、継続的な改善をはかります。
5. 環境側面に関連する法令や、パルシステム山梨が受入れを決めたその他の要求事項を遵守し、事業活動をすすめます。
6. 地域の市民団体・行政・企業などと連携を深め、環境に対する意識向上に努めます。
7. 上記の活動を推進するため、役職員一人一人への教育・情報共有をすすめます。

この環境方針は、生活協同組合パルシステム山梨内外に公開します。

2018年5月15日
生活協同組合パルシステム山梨
専務理事 志村 宏司

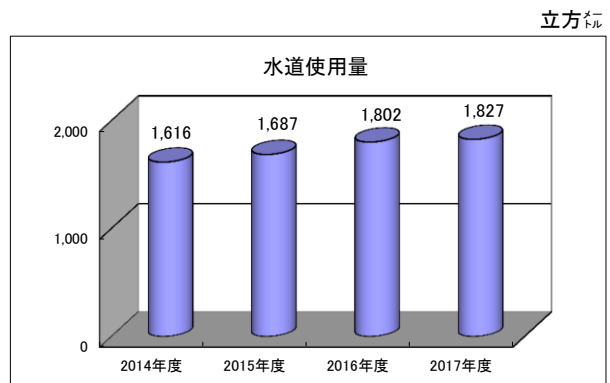
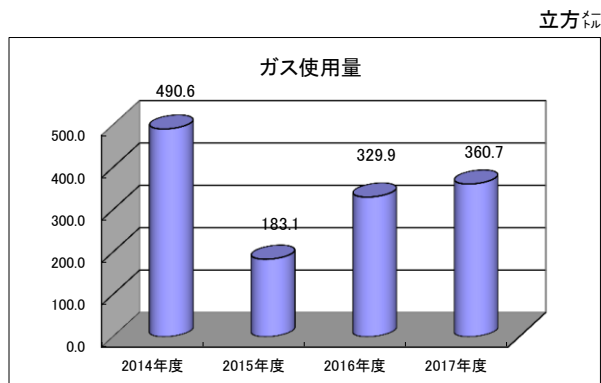
2017年度電気、車両燃料、ガス、水道の実績

[電気、車両燃料、ガス、水道の実績]



2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
425,680	427,741	451,900	446,073

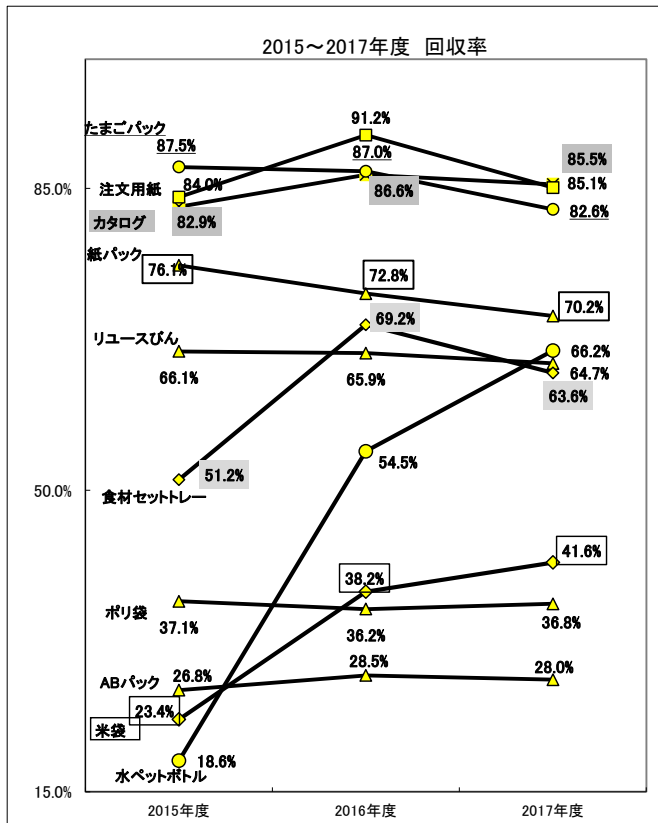
2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
447,039	436,706	421,424	422,707



2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
490.6	183.1	329.9	360.7

2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
1,616	1,687	1,802	1,827

2017年度リユース・リサイクルの回収実績



2015～2017年度回収率

	2015年度	2016年度	2017年度
リユースびん	66.1%	65.9%	64.7%
紙(牛乳)パック	76.1%	72.8%	70.2%
ABパック	26.8%	28.5%	28.0%
商品案内(カタログ)	82.9%	86.6%	85.5%
注文用紙	84.0%	91.2%	85.1%
ポリ袋	37.1%	36.2%	36.8%
たまごパック	87.5%	87.0%	82.6%
食材セットトレイ	51.2%	69.2%	63.6%
米袋	23.4%	38.2%	41.6%
水ペットボトル	18.6%	54.5%	66.2%

リユース・リサイクルにおける行政費用の削減効果(推計)

	回収重量 (kg)	資源化費用削減額 (円)
リユースびん	25,086	1,755,348
紙(牛乳)パック	17,030	1,191,640
ABパック	3,277	229,301
カタログ	599,682	41,961,532
注文用紙	14,367	1,005,302
ポリ袋	12,976	907,969
たまごパック	19,384	1,356,356
食材トレイ	836	58,502
米袋	872	60,997
水ペットボトル	1,442	100,902
合計		48,627,849

パルシステム山梨で組合員さんから回収したリユース・リサイクル容器や包材の回収重量をあわせて、行政で一般廃棄物として処理した場合の費用を掲載しています。自前でリユース・リサイクルすることで、行政の一般廃棄物処理に係る費用(私たちの税金)のうち、2017年度は約4,862万円相当を削減した、と推計されます。

※山梨全体での、ごみ処理用に対するごみ処理費用(推計)は、69.97円/kg (参考資料:環境省「日本の廃棄物処理 平成28年度版」)